

令和3年度西洋社会科学古典資料セミナー講師紹介

書誌学講義「昔の本はこうだった—西洋古書について」



高宮 利行（たかみや としゆき）氏

慶應義塾大学名誉教授。シェフィールド大学名誉文学博士、グラスゴー大学名誉文学博士。ケンブリッジ大学書誌学リーダー。ロンドン好古家協会フェロー。専門は中世英文学、書物史。著書に『西洋書物学事始め』青土社（1992年）、『図説本と人の歴史事典』（共著）柏書房（1997年）、『アーサー王物語の魅力』秀文インターナショナル（1999年）、『本の世界はへんな世界』雄松堂書店（2012年）など。中世写本のコレクターとしても知られる。

公式サイト <https://toshitakamiya.com/>

YouTube

<https://www.youtube.com/channel/UCIz0xjuQ2r45foRKxWIXeSg>

資料保存・管理講義「貴重書のIPM対策」



井上 桃子（いのうえ ももこ）氏

株式会社明治クリックス文化財IPM事業部課長。文化財IPM (Integrated Pest Management) の考え方を軸とし、各地の大学図書館・美術館等を対象に、カビ・ムシ対策を中心とした文化財保存のコンサルティングから環境調査、燻蒸処理までトータルサポートしている。

株式会社明治クリックス <https://meijiclix.co.jp/>

古典研究講義

「福田徳三とドイツ歴史学派経済学—K.ビュッヒャーとの関係を中心に—」(仮)



森 宜人（もり たかひと）氏

一橋大学大学院経済学研究科・社会科学古典資料センター教授。専門は西洋経済史、ドイツ近現代都市史。主に19世紀後半～20世紀前半のドイツをフィールドとして、近現代ヨーロッパの社会変動を都市史の観点から把握することを研究課題とする。著書に『ドイツ近代都市社会経済史』日本経済評論社（2009年）、『地域と歴史学—その担い手と実践—』（共編著）晃洋書房（2017年）、『20世紀の都市ガバナンス—イギリス・ドイツ・日本—』（共編著）晃洋書房（2019年）、論文に「アフター・コレラのハンブルクーエピデミックによる失業の発見と公共職業紹介所の展開—」『一橋大学社会科学古典資料センターStudy Series』77（2021）など。